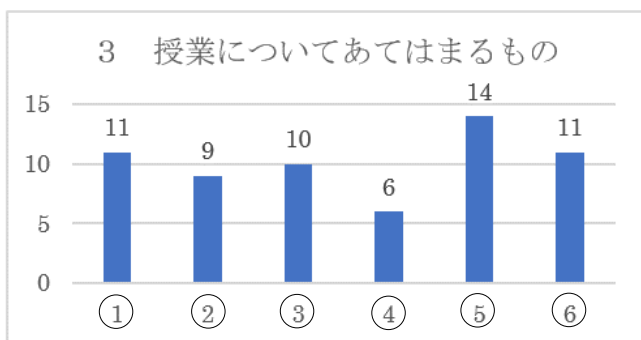


研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える
 ～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

分科会提案

現在の児童の姿 「児童・生徒の学力向上を図る調査」の分析より
 以下の点について、本単元で重点的に改善を行う。



① 授業の問題は、頑張ればできることが多いと思う	④ 授業では友達と考えを交流している
② 授業では前の時間までに勉強したことを確認する時間があると思う	⑤ 授業では自分のわかったことや考えたことを友達や先生に説明する時間があると思う
③ 授業では、ほかの勉強をいかにして考える時間があると思う	⑥ 授業では勉強したことを振り返っている

生活科への意欲は高いが、友達と話し合い、協働的に学習することが苦手である。

意欲的に学習に取り組んでいるが、自分の考えをもつことにとどまっている。

学んだことを整理して、次の学習につなげることができていない。

グループで探検の道順を決めることで、主体的に学習に取り組めるようにする。床地図を俯瞰的に見ることで、調べたいことを見付け、すすんで学習できるようにする。

3-1・4の改善

児童の成果物をタブレット型端末や大型テレビに映し、児童のがんばりやよさを共有する。それにより、生活科の見方・考え方を広げたり、まとめる技能を高めたりすることができるようにする。

3-3・5の改善

フィールドワークの役割分担をすることや、終末に「はじめて知ったこと」「次にしてみたいこと」などを発表する場をグループごとに行い、全員が発言することで、見通しをもった学習ができるようにする。

3-2・6の改善



目指す児童像

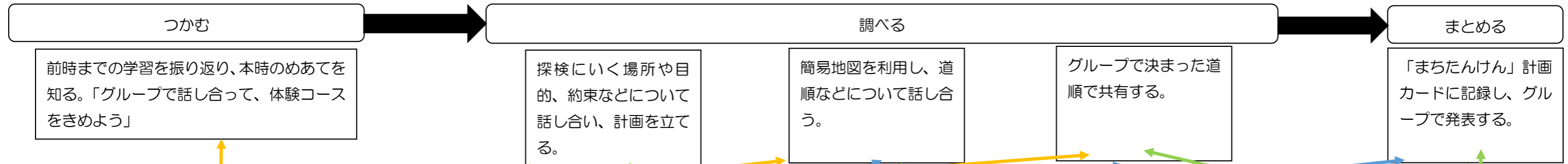
課題に対して、あきらめずに繰り返し取り組むことができる。

課題に失敗した際に、方法をかえて繰り返し挑戦することができる。

課題に取り組む際に、自分である程度の目安を立てて取り組むことができる。

単元の目標「地域の様々な場所を探検したり、公共物などを利用する活動を通して、地域やそこで働いている人々について考えたり、公共の施設などのよさや働きを捉えたりすることができ、自分たちの生活や様々な人や場所と関わっていること、身の回りにはみんなで使うものがあること、それらを支えている人々がいることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に正しく利用したりできるようにする。」

本時の流れ



**手だて1 「グループ活動の充実」
「探検カードと床地図の活用」**

グループで活動することで、児童は、自分の考えを発信する楽しさを知り、意欲的に発表する姿が多く見られるようになった。



手だて2 「ICTの活用」



タブレット型端末のオクリンクと大型スクリーンを活用し、児童の考えをクラス全体で共有する機会を多く設定することで、児童がその操作に慣れ、スムーズに交流できるようになった。



床地図を俯瞰的に見ることで、調べたいことを見付け、すすんで学習できるようになった。

**手だて3 「フィールドワークにおける道順の検討」
「振り返りの充実」**



フィールドワークでは、グループごとに自分達で道順を決めるという自主的な活動によって、「調べたい。」という意欲を高めて、活発な話し合いをすることができた。



振り返りでは、グループごとに全員が発表することを通して、児童は次時への期待をもつことができた。

児童に見られた様子

手だて 1

「グループ活動の充実」
「探検カードと床地図の活用」

グループで活動することで、児童は、自分の考えを発言しやすくなっている様子が見られた。

探検カードを使って、自分たちがどの道を探検するのかが考えやすくなっている様子が見られた。



手だて 2

「ICT の活用」

タブレット型端末のオクリンクと大型スクリーンを活用することで、児童同士が自分の探検のルートなどを積極的に交流している姿が見られた。また、自分の考えをもつことが苦手な児童にとっても、友達と交流することで、自分の考えをもつことを促すことができた。



手だて 3

「フィールドワーク
における道順の検討」
「振り返りの充実」

フィールドワークにおける道順の検討をすることでフィールドワークに対する思いや願いを各自がもって取り組もうとする姿が見られた。

振り返りでは、今日気付いたことや考えたことを友達同士で共有していた。それを全体に向けて発表することで、次時への意欲をより高めている様子が見られた。



成果

- ・タブレット型端末のオクリンクと大型スクリーンを活用し、児童の考えをクラス全体で共有する機会を多く設定することで、児童がその操作に慣れ、スムーズに交流できるようになった。また、児童は、自分の考えを発信する楽しさを知り、意欲的に発表する姿が多く見られるようになった。
- ・フィールドワークでは、グループごとに自分達で道順を決めるという自主的な活動によって、「調べたい。」という意欲を高めて、活発な話し合いをすることができた。
- ・振り返りでは、グループごとに全員が発表することを通して児童は次時への期待をもつことができた。

課題

- ・意見を出すための手だとして取り入れたオクリンクだったが、その操作について児童の負担になっていた。情報機器を活用する際のつまずきやその手だてについて理解を深めたり、情報活用能力について高めることができるよう日頃から意識して指導したりする必要がある。
- ・話し合いでは、ICT 機器を活用して、自分の意見を意欲的に発言するようになったが、友達の意見に興味をもち、自分の意見に取り入れることには課題が見られた。意見を述べて満足するのではなく、友達の意見との共通点や相違点に気付き、学びを深めることができるようにするためには、新たな手だてが必要である。
- ・振り返りでは、グループの思いや願いを共有することによって、意欲的な面では成果は見られたが、生活科のねらいに迫るような振り返りとするには課題が見られ、学習を積み重ねていくためには、振り返りの視点を明確にする必要がある。